

名城大学 海外臨床薬学研修

研修期間：令和元年 6 月 30 日～令和元年 7 月 14 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：5 年

学籍番号：150973106

氏 名：伊藤紗智子

1. 参加目的

アメリカでの薬学の知識を深める。アメリカと日本の薬学の現場、薬剤師の役割、薬学部の教育の違いを学び、双方の特徴を捉える。そして、参加している他国の多くの学生と交流を深め、友達の輪を広げる。今後の実習に備えて、自分がなりたい薬剤師像について考える。

2. 研修内容

【研修テーマ】アメリカで薬学を学び、自分の今後の薬剤師像を描く

【研修日程】

月日	研修内容
6 月 30 日	移動日
7 月 1 日	<ul style="list-style-type: none">・プログラムの日程説明、USC についての説明、USCID カード作成・授業で使うソフトの説明・学内、学外での安全対策についての説明・Welcome Dinner
7 月 2 日	<ul style="list-style-type: none">・サマープログラムに参加している国とアメリカの医療制度について・医薬品情報の扱い方、自分での調べ方・人体の ADME の総合的な授業・他大学のプレゼンテーション・グループセッション・オペラ鑑賞 (Phantom the Opera)
7 月 3 日	<ul style="list-style-type: none">・糖尿病の疫学について・糖尿病の病態、症状、1 型/2 型の違い・タンパクを標的として作用する糖尿病薬について・他大学のプレゼンテーション・グループセッション
7 月 4 日～7 日	休暇
7 月 8 日	<ul style="list-style-type: none">・糖尿病薬の作用標的と種類・メトホルミンとオンダンセトロンとの相互作用・糖尿病治療の有効性の確認、薬の有効性の確認・症例検討、各糖尿病薬の特徴と効果・他大学のプレゼンテーション・グループセッション

7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病薬の薬理、構造 (SGLT2 阻害薬、DPP4 阻害薬、GLP-1 製剤) ・臨床での SGLT2 阻害薬、DPP4 阻害薬、GLP-1 製剤の使い方 ・デバイスを用いての自分の血糖値の測定 (実技演習) ・他大学のプレゼンテーション ・グループセッション
7月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・Santa monica homeopathic pharmacy の見学 ・インスリンの構造・体内動態 ・グループセッション
7月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の症例検討 ・インスリン製剤の種類と特徴 ・インスリンバイアル製剤の実技演習 ・グループで作成した問題をアプリを用いて解いた (クイズ大会)
7月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・Plaza Pharmacy の見学 ・USC の教授と学生によるプレゼンテーション ・ランチレセプション ・修了式
7月13日～14日	移動日

【研修内容の詳細】

研修は2週間かけて糖尿病をメインに講義が進められた。一日の中で午前中は科学的な視点から、午後は臨床的な視点から、扱う薬剤についての講義が行われた。科学的な視点では糖尿病とは何なのか、から始まり、罹患時の病態や血糖降下薬の動態に対してpHや水溶性、脂溶性、 IC_{50} などを考えながら問題を解いた。臨床的な視点では、糖尿病の症状や、検査の基準値から学び、途中からTTという名前の患者に対して、治療にはどの薬が最適か、非薬物療法は何が最適なのか、ということを考えながら講義が進められた。基本的に午前の授業で扱った薬剤を午後にも扱い、1日の中で扱った薬に関して詳しく知ることができた。また、研修の初日にグループが発表され、講義もグループごとの席で受講した。1グループ6、7人で10グループほどあった。同じ大学の人がいることはなく、私のグループには名市大と上海と韓国の大学の学生が一緒だった。講義中に問題が出たり、症例検討で話し合いをするよう言われたりするときはそのグループで話し合いをしていた。また、グループごとに血糖降下薬が1つ割り当てられて、5回に分けてその薬についてのスライドをグループで作成した。

3. 感想

大学に入ってからずっと行きたかった海外研修に行けて非常に嬉しかった。最初は英語に対してすごく不安もあったし、実際にUSCに行ってから英語を話すことに対して躊躇した。でも一言でも相手に伝わると嬉しくて、もっと話したい、もっと伝えたいという気持ちになって日に日に英語に対する抵抗はなくなった。また、今回研修に行ったことで単に講義で聞いて知っていた内容を目で見て、薬剤師の人と話して知ることができた。1番に感じたことは、アメリカの薬剤師は日本よりもできることが多い分、医薬分業化確立されていて、自分の仕事に対して誇りをもって仕事をしているということだった。同じ処方だったら薬剤師が対応することはないが、相談があるときは患者さんとよく話し、適切な薬、適切な時間、適切なタイミングを重要視し、患者とのコミュニケーションを大切にしていた。私はこれから薬局と病院の実習を控えていて、アメリカほど多くのことができるわけではないが、日本でできる最低限のことで患者さんが安心できる、納得できる処方ができる薬剤師になりたいと思った。